

JIMGAnews

第81号

目次

- 「高圧ガス-自主保安高度化事業者の概要について-インセンティブの拡大-」
KHKセミナー開催(2024年2月19日) 1
- 第54回IHC京都会議の開催 3
- ISO/TC58(容器及び附属品の使用規格)世界会議参加報告 5
- JIMGA新組織および会員制度移行に伴うウェブサイトメンテナンスについて ... 7
- 医療用医薬品に係る元素不純物に基づく管理についての説明会を実施 9
- 第64回日本呼吸器学会学術講演会に出展 10
- ウェブサイト掲載お知らせ一覧 —2024年2月15日~2024年4月15日掲載— 11
- 新事務局員の紹介 12
- 気ままにコラム 13



「高圧ガス-自主保安高度化事業者の概要について-インセンティブの拡大-」 KHKセミナー開催(2024年2月19日)

スマート保安の促進を念頭においた「認定高度保安実施者制度」が開始(2023年(令和5年)12月21日)され、同時期に中堅業者を念頭においた「自主保安高度化事業者制度」においても、大きなインセンティブが得られるようになったことを機に、高圧ガス保安協会(KHK)保安技術部門保安業務グループグループマネージャーの名倉和広氏より、その内容を解説するセミナーが2024年第4回規制改革部会に先立って開催されました。



KHK講師:名倉氏の挨拶

規制改革部会委員(対面参加9名、Web参加7名)に加え、5名の委員以外(Web参加)の参加者を加え、21名の参加がありました。15:00に開始され、30分の講演後、活発な意見交換が行われ、16:00に終了しました。

「自主保安高度化事業者制度」は、高圧ガス第1種製造事業所が対象となり、2017年(平成29年)4月に施行されました。今回の制度見直しにあたっては、従来からの規制上のインセンティブである軽微変更範囲の拡大に加えて、貯槽の開放検査周期の延長などのインセンティブが受けられる制度となっています。制度には「経営者のコミットメント」、「リスクアセスメントの実施」、「PDCAを回す仕組み」等が要求され、KHKの書類審査、現地調査が行われ、経済産業大臣が認定します。認定期間は5年であり、更新時には、新規と同じ審査が要求されます。

開放検査周期の延長に関しては、対象設備の腐食・劣化損傷が減肉に限定される場合に適用され、経済産業大臣が認める検査方法として採用が可能な制度となっています。具体的な方法の1つとして、KHK/PAJ/JPCA S 0851(2022)、「高圧ガス設備の供用適性評価に基づく耐性性能及び強度に係る次回検査時期設定基準」があります。

申請に関しては、軽微変更範囲の拡大のみを申請できるものと開放検査期間の延長を加えた



セミナーの様子(於:JIMGA第1会議室)

ものを申請する2種類の申請方法があり、事業所の設備に応じた申請が可能となっています。すでに、いくつかの事業者から問い合わせがあることも報告されました。この自主保安にかかる制度の裾野が拡大することを期待しており、今回のインセンティブの追加を契機として、多くの事業者からの申請をお願いしたいとの要望が、名倉氏より伝えられました。

問い合わせ先については次のページをご覧ください。(規制改革部会 事務局 羽坂 智)

■ 本件に関する問い合わせ先等

- 「特定認定事業者及び自主保安高度化事業者の認定について」掲載先

https://www.meti.go.jp/policy/safety_security/industrial_safety/sangyo/hipregas/files/20231221tokuteininteituutatu.pdf

- 自主保安高度化事業者について KHK HP掲載先

<https://www.khk.or.jp/certification/>

https://www.khk.or.jp/inspection_certification/inservice/maintenance_improvement_business.html

- 「自主保安高度化事業者調査マニュアル」のKHK HP掲載先

https://www.khk.or.jp/Portals/0/khk/hpg/plant_safety/2023/jishumanual_0403_6_.pdf

- 自主保安高度化事業者に係るお問い合わせ先

高圧ガス保安協会 保安技術部門 保安業務グループ

TEL 03-3436-6103 FAX 03-3438-4163

e-mail hpg@khk.or.jp



第54回IHC京都会議の開催

3月5日～6日に、第54回IHC（International Harmonization Council：国際整合化委員会）会議が、JIMGAホストとしては4年ぶりに、ザ・サウザンドホテル京都で開催されました。

昨年より新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行し、海外からの往来も日常を取り戻しつつある中、1月1日に最大震度7を観測する能登半島地震が発生し、翌1月2日、羽田空港での、地震被災地に救援物資を届けるための海上保安庁の航空機と日本航空の旅客機との衝突炎上事故が起きたため、急遽キャンセルする参加者もいましたが、総勢17名の参加を得ました。参加メンバーは、EIGA（ヨーロッパ）2名、CGA（アメリカ）3名、AIGA（アジア）2名、JIMGA（日本）5名（澤木専務理事、羽坂常務執行役員、田国際部会副部会長、久和野IHC-WG長、平塚）に加え、IOMA-GC（International Oxygen Manufacturers Association-Global Committee：国際酸素製造者協会-国際委員会）オブザーバー5名（Messer、Nippon Gases Europe、Air Liquide、Air Water）となりました。



会議の様子



Rich Craig（CGA技術ダイレクター）議長の進行のもと、会議が進められました。自己紹介に続き、独占禁止法遵守宣言を確認し、前回の第53回IHCアメリカ・バージニア州マクレーン会議の議事録の確認を行った後、各協会の活動報告が行われました。JIMGAからは、「JIMGA会員数および2024年4月からの新体制について」、「2023年度高圧ガス容器特別回収」、「9地域本部主催での6テーマのセミナー開催」、「テールゲートリフター付き車両に関する特別教育」、「JIMGA出版物」について紹介しました。

続いて、Rich Gottwald氏（CGA）、Philippe Cornille氏（EIGA）から昨年10月南アフリカ・ケープタウンで行われたIOMA GC会議の報告があり、2024年度IOMA国際整合化功労賞の



参加者

候補3名（EIGA、CGA、JIMGA）の確認とIHC推薦候補者を議論しました。IHCの作業負荷評価と委員会・WGの作業負荷確認、進行中のプロジェクトおよび将来の新規プロジェクト・改訂プロジェクトの検討確認と優先順位付けの議論では、JIMGAリードで作成した「アルシンの安全な取扱指針」、「ホスフィンの安全な取扱指針」の改訂作業を開始することが決まりました。また、ヨーロッパで使用制限が検討されているPFAS

について、IHCとしてタスクフォースを組織化することを決定しました。

最後に、IHC水素コーディネートについての議論があり、世界的に水素取扱い業者が増えることによる安全維持の懸念に対して、技術基準を作成することが重要であること、IHCがISO TC197「水素技術」や他の水素技術基準を策定する関連団体との連携を深め、寄与すべきであるとのコンセンサスを得ました。



翌3月7日は、15名の参加者にて、京都市内の観光をしました。数々の世界文化遺産を有する京都市内の神社仏閣の中で、金閣寺、銀閣寺、清水寺、東寺等を見学しました。

中でも、技術者が多いためか、清水寺において、ビルの4階に相当する13メートルの高さの「清水の舞台」を支えている柱が釘を一本も使用せず建てられていることに深い興味を持つ参加者や、日本の神社とお寺の違い等、日本文化に関する質問する参加者の姿が見られました。最後は、東寺の金堂の薬師如来像のあまりの迫力に一同声を失い、静まりかえった厳粛な空気の中、東寺創建以降1200年の長い日本の歴史を肌で感じる貴重な体験をした後、早咲きの桜のもと五重塔の前で記念撮影をし、全員無事に帰国の途につきました。

次回の第55回IHC会議は、2024年8月20日～21日にEIGA主催で、ベルギー・ブリュッセルで対面会議として開催される予定です。

(技術・保安グループ事務局 平塚 典子)



参加者との京都市内観光の様子

ISO/TC58 (容器及び附属品の使用規格) 世界会議参加報告

ISO/TC58国際会議が2月5日～8日にドイツ・ベルリンのThe Deutsches Institut für Normung e.V. (DIN：ドイツ規格協会) にて開催されました。

ISO/TC58は、ガス容器関連の専門委員会です。JIMGAはKHKを通じてJISC（日本産業標準調査会）からISO/TC58の分科会に当たるISO/TC/SC4の当該国際委員を委嘱されており、年間を通してISO/TC58/SC4が担当する規格案や規格の定期見直しに対して投票案を作成する等の取り組みを行っています。今般、KHKから、同時開催されるISO/TC58への参加の打診もあり、JIMGA事務局（羽坂）と容器技術WG長（柿木）の2名が日本代表として参加しました。



DIN本部



ISO/TC58はイギリスBSI（英国規格協会）が事務局として運営しており、今回の会議は、ホスト国のドイツに加え、カナダ、フィンランド、フランス、イタリア、韓国、ノルウェー、スウェーデン、イギリス、アメリカ、日本の11か国、EIGA（欧州工業ガス協会）、世界LPG協会代表者、各分科会事務局等が参加しました。

議長（BSI）の議事進行により、TC58事務局から、TC58の戦略的ビジネスプランの採択、大型容器の輸送のための基準についてのこれまでの取り組みと今後の対応の報告、各WGからの活動状況報告、語句の統一に関する報告について議論され、14項目の決議が行われました。特に、水素に関するタスクフォース活動が行われており、大型チューブにヘリウム、水素やメタンを含むことが確認されました。

また、ISO/TC58/SC4国際会議では、システマティックレビュー、定期検査に使用されるMAE試験のISO基準の進捗に関する確認が行われました。



参加者



ISO/TC58の国際会議に参加したことによって、SC4（容器の運転要件）以外のSC2（容器附属品）、SC3（容器の設計）に関するISO/TC58の全体の活動を学べる良い機会となりました。

次回は、2025年10月に、ISO/TC58/SC3と合同で開催されること（場所は未定）が決定しました。

（技術・保安部会 容器技術WG長（大陽日酸株式会社） 柿木 一大）

ベルリンは、ベルリン大聖堂の周辺に、古代イスラム、古代ギリシャ、ローマの遺跡、先史時代・古代エジプト、ビザンチン時代、ドイツの美術品が展示されており、多くの博物館、美術館が集中している芸術都市です。この地区は、ミュージアムシンゼル（博物館島）としてユネスコの世界遺産にも登録されています。



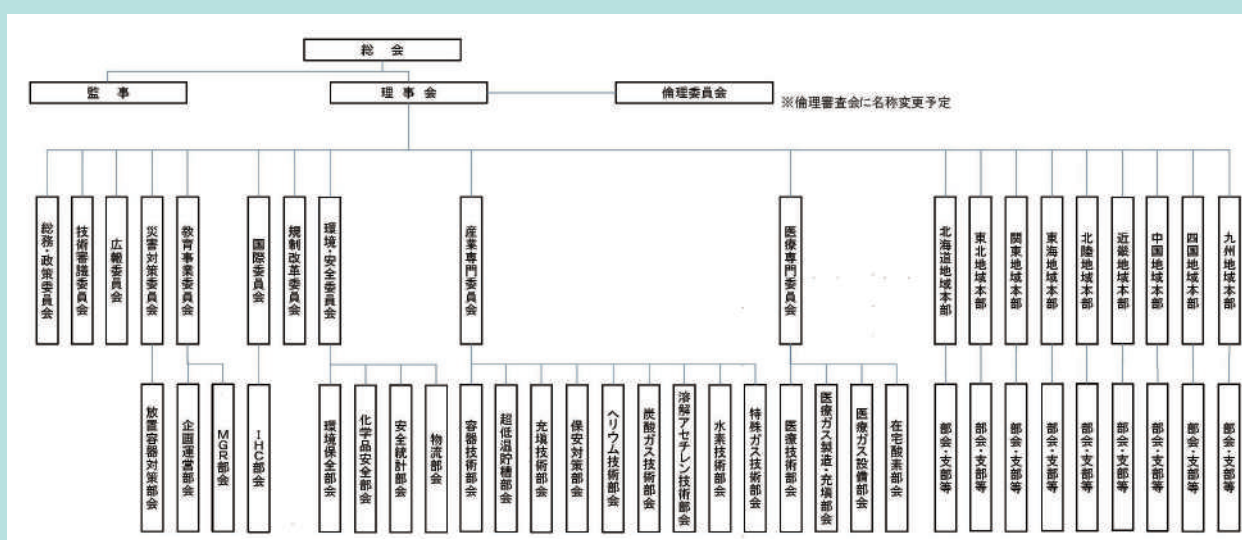
ミュージアムシンゼル（博物館島）の一角（左が旧博物館、右がベルリン大聖堂）

JIMGA新組織および会員制度移行に伴うウェブサイトメンテナンスについて

JIMGA新組織および会員制度移行について

JIMGAでは4月1日より部門制を廃止し、会員単位が法人に統一された新組織体制がスタートしました。医療、産業それぞれに専門委員会を設置し、既存事業の継続性や専門性を維持するとともに、組織階層と機能を明確にしました。

JIMGA組織図



会員ログインについて

体制移行に伴い、JIMGAウェブサイトのシステムメンテナンスを実施しました。一部の会員ユーザーの皆さまにおいては、従来ご使用いただいていたログインパスワードが使用できなくなっている場合があります。ログインできない場合は、ログイン画面の【パスワードをお忘れの方はこちら】よりパスワードの再発行をお試しく下さい。

旧体制ではウェブサイトにおいて、医療ガス部門会員用、産業ガス部門会員用など、閲覧可能な情報や会員価格で購入可能な商品等が限定的な場合がありましたが、4月より全会員ユーザーの皆さまが会員ページの閲覧、会員専用資料のダウンロードが可能となりました。（会員ログイン後にご利用ください）

※一部の医療ガス関連文書については、部会員ユーザー限定の資料があります。
ご不明な点はJIMGA本部までお問合せください。

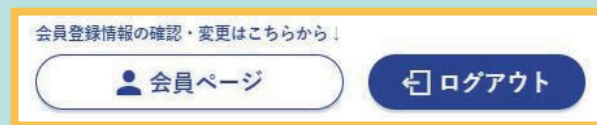
会員ページについて

会員ページではユーザー情報の確認、変更の他、以下の操作が可能です。（ユーザー登録のうえ、会員ログイン後にご利用ください）

◆◆ 会員ページご利用方法 ◆◆

- 1 ユーザー情報：ユーザー情報（メールアドレス、住所等）の確認・変更が可能です。
- 2 事業所情報：所属企業・事業所の登録情報の確認が可能です。
- 3 登録済みユーザー一覧：会員代表者・会員指定代表者・JIMGA窓口担当者・JIMGAの委員会/部会/WGに参加者されている方等の登録情報の確認と修正依頼が可能です。
- 4 事業所情報修正依頼：JIMGAへの事業所情報の修正依頼、その他連絡が可能です。

※ユーザー登録、会員ページは
こちらからご利用ください➡



その他で不明な点については、JIMGA本部までお問合せください。

(企画・事業グループ事務局)

医療用医薬品に係る元素不純物に基づく管理についての説明会を実施

令和3年（2021年）6月公示「日本薬局方第十八改正」において、元素不純物の管理に関する通則34が新規収載され、一般試験法<2.66>に元素不純物の管理が明記されました。

これにより製造販売業者は、製造する医薬品に元素不純物が混入しないようリスクアセスメントの実施が求められるようになりました。この経過措置期間が今年6月末までであることから、JIMGAでは東京・大阪の2会場にて以下のとおり説明会を実施しました。



東京会場の様子

【東京会場】

日 時：2024年3月25日(月) 14：00～16：00

場 所：浜松町AP会議室

参加者：142名（会場66名・Web76名）

【大阪会場】

日 時：2024年4月12日(金) 14：00～16：30

場 所：大阪科学技術センター大ホール

参加者：173名（会場91名・Web82名）

【内容】

はじめに（資料説明等含む）

- ① 日本薬局方について
- ② 元素不純物対応について
- ③ F A Q（事前に頂いた質問に関する説明）
- ④ 休憩（15分）
- ⑤ リスクアセスメント（実習）
- ⑥ 質疑応答
- ⑦ まとめ

今後のスケジュール

参加者の方々より本説明会に関する質問を募集し、Q&A集を5月第3週に送付の予定です。また製造販売業者へのリスクアセスメント実施調査を、6月中旬～末に実施します。



大阪会場の様子

これらを取りまとめのうえ、7月中旬に厚生労働省への報告を実施の予定です。会員の皆さまのご理解、ご協力をお願いいたします。

ご不明な点はJIMGA本部技術・保安グループまでお問合せください。

（技術・保安グループ 事務局 高平 進一）

第64回日本呼吸器学会学術講演会に出展

2024年4月5日(金)～7日(日)の3日間、パシフィコ横浜 ノース（横浜市）で開催された第64回日本呼吸器学会学術講演会にJIMGAが出展し、在宅酸素療法における火気取扱いと携帯用酸素ボンベの取扱いの注意の啓発活動を行いました。

今回の学術講演会のメインテーマは「ポストコロナ時代の呼吸器病学～みなと横浜から世界へ、そして未来へ～」とし、ライブ配信なしでの対面方式が採用されコロナ禍前を彷彿とさせるような活発な情報交換を期待しての開催となりました。会場への参加が困難な会員にはプログラムのオンデマンド聴講できる仕組みも準備されていました。

学術集会の会場参加者は4,500名、オンデマンド聴講者含めると9,500名、海外より30名で過去最高人数だったと金子会長（横浜市立大学大学院 医学研究科呼吸器病学教室 主任教授）より発表がありました。



会場入口（左上）・金子会長挨拶の様子（右上）
展示会場全景（下）

JIMGAブースでは在宅酸素療法における火災予防啓発ビデオを展示

JIMGAブースでは、在宅酸素療法における火災予防啓発ビデオの動画展示と各種パンフレットの展示配布を行いました。また学術講演会の受付付近のテーブルにも配布用パンフレットを陳列し、「公共輸送機関内における医療用酸素吸入について」の冊子は最終日を待たずに在庫切れになるなど、特に医療機関関係者の関心の高まりがうかがえるイベントとなりました。

第65回日本呼吸器学会学術講演会は、2025年4月11日(金)～13日(日)に東京国際フォーラムで開催されます。
(技術・保安グループ 事務局 長沢 修二)



JIMGAブースの様子（左）とブース内での啓発ビデオ展示

ウェブサイト掲載お知らせ一覧 —2024年2月15日~2023年4月15日掲載—

JIMGAウェブサイトでは、会員の皆様に向けた最新の情報をお知らせページにて掲載しています。2024年2月15日~4月15日までに掲載したお知らせをまとめましたので、URLよりご覧ください。最新のお知らせはこちら→<https://www.jimga.or.jp/news/>



- 2024.04.15 「酸化エチレン滅菌ガスハンドブック」改訂のお知らせ
<https://www.jimga.or.jp/news/detail.php?id=1429>
- 2024.04.10 【高圧ガスオンデマンド保安講習】「CE設置事業所・ローリ運行事業所関係基準（第3次改訂版）の解説」開催のご案内
<https://www.jimga.or.jp/news/detail.php?id=1428>
- 2024.04.05 販売・有料セミナー申し込みシステムメンテナンスのお知らせ
<https://www.jimga.or.jp/news/detail.php?id=1427>
- 2024.04.02 会員ログイン時のご注意（システムメンテナンスを実施しました）
<https://www.jimga.or.jp/news/detail.php?id=1425>
- 2024.04.02 令和6年「STOP！熱中症 クールワークキャンペーン」の実施について
<https://www.jimga.or.jp/news/detail.php?id=1423>
- 2024.03.27 「水素供給システムの標準手順」発行のご案内
<https://www.jimga.or.jp/news/detail.php?id=1426>
- 2024.03.12 JIMGAウェブサイト システムメンテナンスのお知らせ
<https://www.jimga.or.jp/news/detail.php?id=1424>
- 2024.03.12 令和5年度補正省エネ補助金の概要及び省エネ法・定期報告情報の開示制度について
<https://www.jimga.or.jp/news/detail.php?id=1422>
- 2024.03.05 「価格交渉促進月間」の実施に関する通知
<https://www.jimga.or.jp/news/detail.php?id=1421>
- 2024.03.04 化学物質による労働災害防止のための新たな規制について
<https://www.jimga.or.jp/news/detail.php?id=1420>
- 2024.03.04 【情報共有】2月26日からの千葉県東方沖の地震活動について ～地震調査研究推進本部地震調査委員会（臨時会小会議）の評価結果～
<https://www.jimga.or.jp/news/detail.php?id=1419>
- 2024.03.01 JIMGAnews 第80号発行のご案内
<https://www.jimga.or.jp/news/detail.php?id=1418>

新事務局員の紹介



名 前：山中 昭一（やまなか しょういち）

現住所：香川県高松市

出身地：熊本県

略 歴：1982年 4月 大同酸素(株)（現エア・ウォーター(株)入社）

1997年 4月 中・四国支社 岡山営業所長

2002年 5月 イーシー化学(株) 取締役

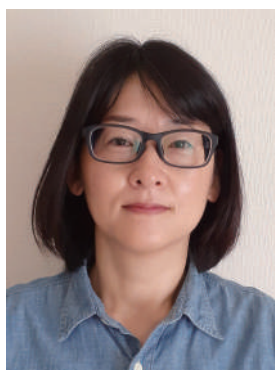
2010年 4月 四国エア・ウォーター(株) 取締役

2014年12月 (株)ガスネット 取締役

2024年 4月 JIMGA 四国地域本部 事務局長

趣 味：スポーツ全般に興味があり、特にプロ野球が一番好きです。
通算本塁打数とか年間安打記録とかの数字に興味を持っています。
あとはゴルフをたまに楽しくラウンドするぐらいです。

抱 負：入社以来、営業の仕事でしたのでこの度JIMGAの一員となり、気が引き締まる思い
です。
四国地域の安全・保安の推進に貢献できたらと思います。
皆様のご指導・ご協力をお願い申し上げます。



名 前：西川 朱美（にしかわ あけみ）

現住所：香川県

趣 味：休日はおやつを食べながらNetflixでドラマを見ています。
何時間でも見ていられます。

抱 負：新事務局長の山中さんと協力し、四国地域本部の業務が滞り
なく進むよう頑張ります。



気ままに コラム

4月はやっぱり桜ということで、地元山梨の今年の桜を紹介させていただきます。

まずは、日本三大桜（福島県の三春滝桜・山梨県の山高神代桜・岐阜県の根尾谷薄墨桜の3つの巨木の桜）のひとつの山高神代桜。

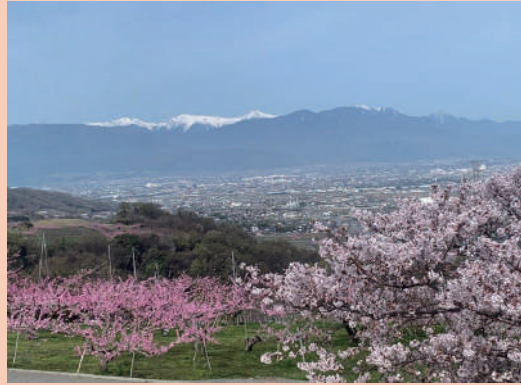
エドヒガンザクラで、樹齢はなんと2000年。日本最古、最大級を誇る桜と言われているそうです。ヤマトタケルノミコトが自らの手で植えたという伝説や、日蓮宗の宗祖である日蓮聖人の祈りによって衰えから回復したという言い伝えなど、神聖な伝説が残されている桜と山頂に少し雪の残る甲斐駒ヶ岳を見ながら、2000年という歴史に少し浸ってみました。



次に、あまり世間には知られていないライトアップされた「わに塚の一本桜」。山梨県民には有名なのですが…ライトアップは1週間のみで18時～20時のみ。夜の暗闇に浮かび上がる樹齢約330年のエドヒガンザクラ。一本桜のライトアップは圧巻です。幻想的な桜を眺めていると、あっという間に1時間が経過しライトアップ終了の声がかかります。駐車場もタダでボランティアの方々がやったださるライトアップ。仕方ないか。



最後に…今年は桜の開花が遅れた影響で、山梨では桜と桃の花の競演が見られました。
雪が残る南アルプスの山々。とっても癒される景色です。



そして、桃畑を走るリニア新幹線の線路。



地元に必ずある桜の名所。広い日本列島、
桜はゴールデンウィークに咲く所もあり、
まだ楽しめますね。

(企画・事業グループ 事務局 能瀬 憲宏)